

## 会議結果のお知らせ

令和5年度第5回宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会を次のとおり開催しました。

令和6年1月10日

宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会

### 1 開催日時

令和5年11月22日（水） 午後6時30分から午後7時50分まで

### 2 開催場所

宮古市市民交流センター 2階 多目的ホール

### 3 議題

(1) 次期総合戦略に向けた市民推進委員会からの意見について

### 4 会議の概要

(1)について、前回までのグループワークの結果から意見を聴取取りまとめた。

### 5 問い合わせ先

宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会事務局

宮古市企画部企画課地域創生推進室

電話0193-62-2111（代表） 内線4614 0193-65-7056（直通）

## 令和5年度 第5回

### 宮古市まち・ひと・しごと創生総合戦略市民推進委員会 議事録

#### 1 開催日時

令和5年11月22日（水） 午後6時30分から午後7時50分まで

#### 2 開催場所

宮古市市民交流センター 2階 多目的ホール

#### 3 出席委員（16名）

松田淳、三河輝夫、芳賀桃子、赤沼喜典、井田裕基、八島彩香、山本美鈴、井川由貴子、黒田雄心、渡部玲子、赤沼悦子、加藤洋一郎、中谷杏朱、成田邦敏、槻館勇太、中沢翔馬

#### 4 欠席委員（13名）

小野寺美賀子、伊東喜幸、武藤勝久、花坂雄大、上野宏介、佐々木秀崇、川又講平、石川巧、成瀬賢紘、鈴木ちほ、長岡輝、菅野悟、瀬戸里奈

#### 5 事務局出席者（6名）

総務部長 下島野悟、デジタル推進課長 西村泰弘、  
同課デジタル推進係長 松本 強  
企画課長 箱石剛、同課地域創生推進室長 工藤真奈美、同課主査 竹田真吾

#### 6 傍聴者

なし

#### 7 議事等

午後6時30分 企画課長が会議の開会を宣言

委員長挨拶の後、議事に入った。

議事として「(1) 次期総合戦略に向けた市民推進委員会からの意見について」を実施。  
第3回、第4回で実施したグループワークの検討内容を意見として取りまとめた。

（意見・質疑等）

#### ▼会議のオンライン化について

（委員）

市民自治推進委員会で、オンライン参加を一度した。育児中のため、長時間家を空けることが難しく、オンライン参加できるのは助かる。

会議資料は、紙面ではなくデータでもらうようにしている。紙面だと後日処分に困る。

オンライン参加が一人だけの会議の場合、会場に参集している委員とのタイムラグがあり、中々話に入りこめないデメリットを感じた。全員がオンライン参加であれば、タイムラグを感じにくいのではないかと考える。

(企画課長)

自分もオンライン会議に参加した経験がある。確かに、会場の雰囲気がわからないというデメリットも感じた。

今度開催するタウンミーティングは、オンライン参加と現地参加で参加できるようにした。市でも、少しずつ始めているところ。

(委員)

実際、この委員会で会議案内が郵送で来ている。その出席報告を電話、メール、FAX、オンラインのいずれかで回答とされているが、実際の回答に関わる使用割合を教えてください。

(事務局)

29名の委員のうち、FAXが8件、オンラインが15件、メールが3件、電話が3件。ほとんどの方がオンラインで出席報告している。

(委員)

会議資料の紙とデータの配布割合はどうか。

(事務局)

29名中16名がデータ送信となっている。

(委員)

会議資料の配布はデータで、開催案内は郵送。個人的には、メールで来ると見やすい。郵送は、事務局の負担も大きいと思うが、必ず郵送でなければならないのか。

(事務局)

今年度は、会社からの推薦で代表としてお越しいただいている委員もおり、会社側で文章が必要な方もいるという認識で、郵送させていただいた。

次年度は、メールのみで良いか事前に確認させていただき、ニーズに併せ案内を发出したいと考えている。

(委員長)

会議の種類によって、案内や回答方法がずいぶん違う。

例えばこの会議は若い方が出席しているのでオンライン回答が多いが、比較的年齢層が高い会議だと紙の資料となる。なかなか全てオンライン化するのは難しい。

宮古短期大学部でも、テキスト等をオンラインで提供するシステムを導入しており、学生がどれくらいそのシステムを利用しているか教員で検討会議をした。私の授業だと全て資料提供しているが、紙で印刷している学生が半分いる。現在は、過渡期。その会議の内容や作業の内容によって手法を、オンラインまたは対面や書面にする等の使い分けが必要。

(委員)

田老から来ている。これからの時期、雪が降ると区界地区の方はオンラインで参加できると良い。雪や雨になるとオンラインという選択肢があるとやりやすい。

会議の内容によっては、オンラインで良かったのではと思う回もある。  
例えば、一方的に話を聞く回、アイデアを出すというようなブレインストーミングみたいなものは事前に言ってもらって考えてきてそれを提出する方法が良い。理想論ではあるが、会議の目的を明確にして、オンラインで良い時、膝を突き合わせて話合う時を設計できれば最高だと思う。

#### ▼総括

(委員長)

デジタルは優しいようで難しい。今回、新しい体制に移っていく中で、デジタルを一つの方法、枠組みとして皆さんに意見をお伺いして、まとまらないのがある意味当たり前で、あえてそれをまとめようとするとう実態から離れたものになる。

デジタル田園都市国家構想総合戦略は、今後進めていくもの。現時点では暗中模索であっても、続けていくことによって少しずつ進歩するかもしれない。

沿岸は人口が減っていく過渡期に入っている。デジタルは非常に重要な要素になってきている。その出発点として今、委員の皆さんが着地点がわからないとお話されているのが現実で、それをどうしていくのかが来年度以降の課題。そういう意味では、今回委員の皆さんがいろいろ迷ってくださったのも大きな収穫。専門家の意見も重要だが、専門家ではないからこそわかる意見が出ていた。これも大きな収穫。来年度以降は、専門家の方々とデジタルをどう浸透させていくかを話し合っていきたい。着地点が見えなかったことは、一つの出発点であったと思う。

午後7時50分 企画課長が会議の閉会を宣言